

JET からの手紙

国際交流の新しくて多様な仕組みへ

長崎県佐世保市企画部文化国際課 国際交流員
尹 銀帥 (ユン・ウンソル)

はじめに

佐世保市の姉妹都市である坡州市が故郷の私は、高校時代、地域の祭りに参加した佐世保市のよさこいチームを見て佐世保市について調べてみた記憶があります。そして、当時は日本語を一切話せなかった私がいつの間にかそこで仕事をしていると思うと、人生は何が起こるか分からず楽しいなと思ったりします。そんな佐世保市に来てからはや2年。相変わらず異邦人として、そして国際交流員（CIR）としての人生も新しいものでいっぱいになり、わくわくする日々の連続です。今日は皆さんに私の住んでいる佐世保市と CIR としての生活についてご紹介します。



夕暮れのハウステンボス



本土最西端にある神崎鼻公園

佐世保市での生活

日本本土の最西端にある佐世保市は県庁所在地ではありませんが、九州全体で9番目に人口の多い（約25万人）都市です。佐世保を代表する観光地といえば、ハウステンボスがあります。ハウステンボスは日本で3番目に大きいテーマパークで、シーズン別に多様なフラワーフェスティバルが開かれています。その中でも一番の見物は春に開かれるチューリップ祭です。オランダをテーマにただけに、春になると色とりどりに公園を染めた

チューリップがとても壮観です！他にも、佐世保にはフランスのモン・サンミシエル湾やベトナムのハロン湾とともに「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟している九十九島国立公園があります。また、佐世保といえば佐世保バーガーも欠かせません。アメリカ軍が駐屯していることで、街の中にバーガーはもちろん、レモンステーキなどさまざまなアメリカ料理店を見ることができます。

国際交流員としての生活

佐世保市 CIR の基本的な業務は姉妹/友好都市（坡州市/釜山広域市西区）との交流をはじめ、職員向けの韓国語講座、市民向けの韓国文化出張講座、通/翻訳などがあります。それに加えて、2年目を迎えることから新たに立てた私の業務目標は、発信情報の質的な向上とネットを通じた受信者の多角化でした。そのため、月1回の図書館異文化講座や月刊交流員情報誌、週1回投稿の交流員 SNS を企画して実行することになりました。

その中で最も愛情を持って臨んだ業務は、図書館異文化講座です。会場の特性上、基本的な韓国の情報だけでなく、例えば日韓の言語の比較、韓国料理で見る韓国史、文化、韓国のトレンドなど、より詳しい韓国事情を取り上げようと思いました。毎回講座のために新しい知識を習得し、市民の皆様に伝えることは CIR としての力量を育てることができる機会になりました。また、チラシの作成から申請受付、推薦図書選定、会場設営から講座に



図書館異文化講座



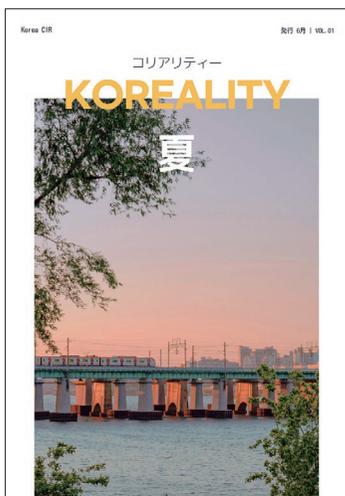
出張での市長の通訳

至るまで、すべての部分にわたって携わることができ、やりがいも最大だった業務でした。

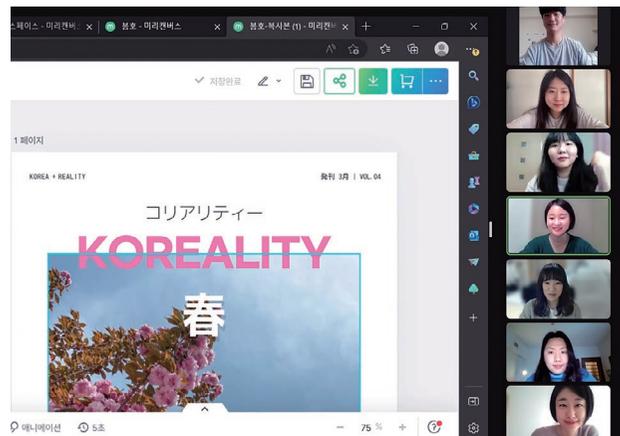
KOREALITY の創刊

そして、2年目の目標の一環で、もう一つの新しいプロジェクトを始めました。それは、全国の韓国人 CIR と力を合わせて季刊誌を発行することでした。

KOREALITY（コリアリティ）は JET プログラムの韓国人参加者 7 人が集まって作った季刊紙で、計 1300 部ほどを発行するとともに、電子配布もするなど、より多くの人が見られるようにしました。そして、私は雑誌の編集長として記事の作成を始め、雑誌のデザイン、会議の主催などの仕事を任せられました。



創刊号の夏号



Zoom でオンライン編集会議をしているエディターたち

雑誌の制作過程は次の通りです。

- ① 該当号のテーマに適した記事の会議
- ② 原稿執筆開始
- ③ 相互・ネイティブチェック
- ④ 雑誌のデザイン
- ⑤ 記事やデザインのチェックや修正、会議を繰り返し
- ⑥ 印刷の発注や配布

印刷された雑誌は各地域の官公庁、図書館、公民館、韓国語学科などに配置され、各種 SNS を通じてオンライン版も配布しました。そして、2023 年 3 月には本事業

業が韓国国際交流財団（KF）主催の「2023 年度韓日交流支援事業」に選定されることになりました。

今後の計画

2 年目には韓国を知らせることに力を注ぎましたが、3 年目には佐世保市と韓国をつなぐ新しい活動を始めてみたいと思います。特に、2023 年は佐世保市の韓国交流都市である坡州市と交流 15 周年、釜山広域市西区と交流 10 周年を迎える年です。ここ数年間、新型コロナウイルス感染症で進められなかったさまざまな交流事業を再開するとともに、意義深い年を記念するいくつかの事業も進めてみたいと思います。また、2022 年度から発行し始めたコリアリティのように、新しい形でより多くの人々に韓国を知らせることができる業務を企画したいと考えています。

終わりに

私の CIR としての究極的な目標は、一人でも多くの人々が日韓両国互いに対して関心を持つことです。そして、関心を持てるように導くことが CIR の使命だと思います。私の使命を果たすために、これから残った任期も新しく多様な方法の国際交流を試みていきたいと思っています。佐世保市で起きているこのような小さな動きが、いつかは両国の関係発展の大きな波につながることを願っています。

プロフィール



尹 銀帥
(ユン・ウンソル)

韓国京畿道坡州市出身。大学では観光を専攻。大学時代、日本の歌手に興味を持ち日本語の勉強を始めた。同時期、NGO でパブリック・ディプロマシー活動（文化を通じた外交手法）を行ったのをきっかけに卒業後 JET プログラムへ参加。趣味は旅行、ピアノ演奏、レコード収集。



佐世保市の国際交流員が
発刊している情報誌



KOREALITY
(オンライン版)